

開催地名：滋賀県彦根市	
開催日時	令和4年11月11日（金） 13：20 ～ 15：20
開催場所	彦根市立西中学校（オンライン開催）
語り部	菊池 のどか （岩手県釜石市）
参加者	彦根市立西中学校1年生生徒 133名
開催経緯	<p>当市では、南海トラフ巨大地震による最大震度6強の被害が想定されている。当学区は、河川や琵琶湖によってつくられた低地が多く、河川氾濫や地盤の脆弱性等の心配がある。また、旧城下町の名残として木造密集住宅、狭い道路が多く延焼危険度が高い上、住宅地の道幅が狭い場所も多く、災害時には救急車両が通れない事態が想定され災害への対策が必要と考えられる。</p> <p>本校では、地震に対する避難訓練及び水害に対する避難訓練や、防災学習計画を立案し、訓練や学習を行っており、災害時に、中学生ができることやすべきことを考えさせ、防災に貢献できる生徒を育てるとともに、災害時の人権擁護の観点からも、防災についてじっくりと考えさせたいと考えている。</p>
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私は、岩手県の南部、太平洋側にある釜石市という所に住んでいる。ラグビーが盛んな街で、2019年に日本で開催されたワールドカップでは会場の一つとして試合も行われた。私は現在、この街で東日本大震災の語り部をするとともに、防災学習に関わる仕事を行っている。東日本大震災が起こる前、私が通っていた中学校では防災学習を実施しており、様々な取り組みを行っていた。その一つが安否札の配布である。安否札とは、津波災害時に避難したかどうか一目でわかるよう、避難済であれば玄関に貼りだす札のことである。私たちは地元の住民を1件ずつ訪問して安否札を手渡しするとともに、そこにお住いの家族と話をすることで、家族構成等についての情報も聞き取った。</p> <p>安否札の配布の他にも、地域の人々の協力を得ながら防災マップを作成したり、防災頭巾の作製や救助訓練、応急処置訓練の実施等を、授業の一環として実施するとともに、隣にある小学校と合同で高台まで避難するという避難訓練も行っていた。</p> <p>（2）東日本大震災当日</p> <p>今から11年前、私が中学3年生で卒業式の2日前の2011年3月11日の午後2時46分、東北地方で大きな地震が発生した。大きな揺れが約3分間続き、その後、東北地方の太平洋側に津波が押し寄せた。釜石市には、最大11メートルの津波が合計18回も繰り返し来た。地震が発生したとき私は校内にいたが、これまでに体験してきた地震と違い、ものすごく大きな音がして立ってられないほどの横揺れが長く続いた。揺れが収まると、訓練の際と同様に点呼場所に向かった。避難訓練時には必ず点呼を取ってから避難していたが、先生が「早く逃げろ」と叫んだので一目散に走りだした。やむを得ず車で避難しなければならない人たちもいたため、避難経路は混乱していた。狭い道に歩行者が集中し、歩行で避難する人で渋滞が発生した。高台に到着後点呼を取り、私たちも、後から逃げてき</p>

	<p>た小学生も全員無事であることが確認できた。津波が来ることにおびえながら、そして無事に津波から助かる方法を考えながら、さらには死にたくないという一心で、小学生と手をつないで、さらに上の高台まで必死に歩いたことを覚えている。幸いにして高台まで津波は来なかったが、下の方では津波が建物を飲み込む、その轟音が聞こえた。そして、地面が振動し、黒い塊のような津波が見えた。</p> <p>私たちは約9キロ離れた避難所に移動した。避難所は座るスペースもないほど避難してきた人たちでいっぱいだったが、小・中学生が避難所に到着したことを知った地域の人たちが、自分たちが外に出る代わりに私たちを体育館の中に入れてくれた。寒さに震えながら、家族のことを思いながら、早く朝にならないかとずっと考えていた記憶がある。</p> <p>(3) 避難生活</p> <p>避難所には人がたくさんいたが、照明もなかったし、毛布も全然足りず、食料を含む救援物資もほとんどない状況だった。これらが避難者に十分行き渡るのには2週間程度たってからで、その頃からようやく避難生活も落ち着き始めたこと記憶している。自衛隊による炊き出しや風呂の設営を始め、日本赤十字の方々による救護所の開設や、全国から沢山の支援物資をいただく等、多くの温かい支援をいただいた。大人たちは朝から捜索や復旧活動に出かけてしまうので、日中避難所で活動できるのは私たち中学生が中心だった。私も配給物資の配布や炊き出しの手伝い、困ってる人の対応等、避難所の運営の手伝いをした。深刻な被害状況が明らかになるにつれて、心配や悲しみがあふれてくるので、避難所で働いているときの方が気が紛れたことを覚えている。</p> <div data-bbox="395 1182 1385 1489"> </div>
開催地より	<p>東日本大震災を経験された語り部から、津波の怖さや避難所生活についての具体的なお話を聞くことができ、生徒たちは災害に対してイメージすることができたと思う。語り部が中学生時代に取り組まれていた防災学習を参考にして、できることに取り組んでいくことで、災害に対する備えをしていきたいと思う。</p>